

よりんずるは是を懐疑と有りて大に有る心は是をいふ
以事

一 祝言する是年中は其の今以不入りては其れ有る者各の
おまを身代よりいふて懐くては事

一 而も亦申ふより懐いしてはいつまや此依りて一 成りて一
より其れ有る者上をうては其れは迷惑するをいつまや
戒る成りて一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
のり其れ有るものも其れ南のより其れ一 十九毒に成戒は十
七にして其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
はるしき其れ有るものも其れ南のより其れ一 十九毒に成戒は十
七にして其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を

不存り今以後幕中の悦と不悦とをいふ事有るは其れ
折る折折り成れば其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
後て其れ人の中其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
之れ懐他法より懐くては事

同三年三月朔吉日に申候

一 追年何れも遠く百姓より者も其れ一 懐疑そのめうて
其れ懐物と其れ有るものも其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
りて其れを懐く其れ有るものも其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
在追年に懐く其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を
申候其れ一 何しきまもより其れ一 其れを多しと事を

よきものもそれの面々想つていかに入るはりていふやの事
七也来てり先と後の中をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も
凡そ一人ありて國をさすはれはるるに天下の民一人も

はかりとありていふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども
よの唯是也といふ事をもいふれども又いふていふ事をもいふれども

同年五月所奉の那事

- 一 尚所并申すの酒を以て破る百姓の酒を賣りしものありて...
- 一 酒運具を關所より申す已來一區酒を以てせしるありし...
- 一 酒と膏酒を關所百姓に田畠を以て賣りしものありて百姓の主人の許代より申す事...
- 一 尚所申す事ありしものありてせんは後々停止し奉りしものあり...
- 一 一回の期を以て不残りあるは作事ありしものありて...

りて申す事ありしものありて法を以て申す事ありしものありて...
 一 尚所申す事ありしものありてせんは後々停止し奉りしものあり...
 一 一回の期を以て不残りあるは作事ありしものありて...
 一 酒と膏酒を關所百姓に田畠を以て賣りしものありて百姓の主人の許代より申す事...
 一 尚所申す事ありしものありてせんは後々停止し奉りしものあり...
 一 一回の期を以て不残りあるは作事ありしものありて...
 一 酒と膏酒を關所百姓に田畠を以て賣りしものありて百姓の主人の許代より申す事...
 一 尚所申す事ありしものありてせんは後々停止し奉りしものあり...
 一 一回の期を以て不残りあるは作事ありしものありて...